

■■■ 『多文化共生』を考える研修会2019 ■■■

今年度も「多文化共生」を考える研修会を8月21日、23日、28日、30日の4日間開催しました。参加者は、108名、105名、69名、94名とこれまで以上にたくさんの方にお越しいただくことができました。

下記はニュース係からの2日間の研修会の報告です。

\*\*\*\*\*

第1回8月21日（水）

於：国際健康開発センター会議室1

【総論】

（1）「メディアが報じない

在日外国人労働者の実態」

出井 康博氏（ジャーナリスト）

日本で働く外国人労働者の数は2018年で146万人（前年比14%増）となっており、国別では、多い国から中国・ベトナム・フィリピン・ブラジル・ネパールとなっており、ベトナム・ネパールの増加が目立っています。留学生、実習生では人手不足の解消とはならず、政府は“特定技能”という新しい在留資格を作り、2019年度から外国人労働者の受け入れを開始しました。これは、国が初めて「単純労働」目的に外国人を入国することを認めたこととなります。外国人永住者の大幅増加、技能実習ビザによる滞在者の大幅増加で、政府の説明とは異なり日本は移民国家へ向かっていると言えます。

1990年代初め、「外国人技能実習制度」がつくられ、発展途上国から色々な職種の実習生を受け入れましたが、実体は人手不足対策です。出身国はベトナム約16万人、中国約8万人、フィリピン約3万人、インドネシア約3万人となっています。この実習生の職場からの失踪という報道がありますが、実習生に対する“人権侵害”というより“低賃金”が大きな理由のようです。利権の根源となっている送る側や受け入れ側の団体による搾取により本人に渡る賃金が少なくなっているのです。借金を背負い日本へ出稼ぎに来ている彼等にとっては目的が果たせなくなり、失踪・不法就労となっているのです。

実習生だけでなく留学生の実体も苛酷な状態です。留学生はアジア新興国出身者が多く、ベトナム・ネパールが急増しています。彼等は多額の借金を背負って来日し、日本語学校に在籍しながらアルバイトをしています。留学生に認められている「週28時間以内」の就労制限を守らず、勉強よりも出稼ぎが目的の“偽装留学生”が増大しています。人手不足を言い訳に、でっち上げ書類を黙認しビザを発給し、“偽装留学生”を都合良く利用・食い物にしている日本側の責任も大きいのです。実習生の問題はよく新聞・テレビで取り上げられていますが、偽装留学生の実態は取り上げられていません。大手メディアの姿勢にも問題があります。

現状では、外国人材の働きなくしては日本経済は回らないところまで来ており、日本人が享受している“便利で安価な暮らし”も維持できなくなります。いやがる仕事を担ってくれ、過疎の地域にも住んでくれる“移民”という“上から目線”の発想では本当の「多文化共生」の実現は夢物語で、「共生」の前に議論すべき事が多くあると考えられます。

（2）「日本育ちのアフリカ青年が見た

不思議の国ニッポン」

星野 ルネ氏 (タレント、漫画家)

アフリカのカメルーン生まれで4才の時、母の日本人との再婚に伴い来日し、姫路で育ち、自分の生き立ちが人々の関心や共感を集めることを発見して上京。現在、タレント活動の傍らツイッター上での自分の日常のエッセイ漫画が話題となり、『まんが アフリカ少年が日本で育った結果』というタイトルで出版されています。今回も、食べ物、小学校の頃の出来事、友達、家族のこと等の日常の出来事をユーモアたっぷりの漫画で紹介してもらいました。絵という共感のバレーンがいかに大きな力を持っているか、価値観の多様性を大切にすることの重大性、違和感というものもレゲエブームというちょっとしたことで一気に飛んでしまったこと、自分の生まれた国に大変愛着を持っているが兄弟でも母国に居たことの長さでその感情がかなり違うこと等の話もありました。つらい経験もしたと思われそうですが、一切そのようなことは口にせず、笑いながらユーモアを交えて話をされ、周りの環境に恵まれたこと、意志の強さというものが強く感じられました。

(ニュース係 川淵 啓司)

第2回8月23日 (金)

於：海外移住と文化の交流センター

【外国にルーツを持つ子どもの教育】

(1) 日本語を母語としない子どもの  
教科学習に必要なこと

講師：志村ゆかり氏 (関西学院大学

日本語教育センター日本語常勤講師)

日本語を母語としない子どものなかには日常会話には不自由しないにもかかわらず学習についていけない子どもがいます。彼/彼女らにとって何が問題なのか具体的な例をあげて発表がありました。

子ども自身の問題として漢字が読めない、言葉の意味がわからない、それにともない物事の関係・指示がはっきり理解できないことがあります。それに対して次のようなことが指摘されました。

1. 学習言語について

生活の中で使われる日本語 (生活言語) と教科書で使われる日本語 (学習言語) にかかなり違いがあります。例：「話す」という言葉にはしゃべる、会話する、議論する、ぐちる などがあります。

2. 数学の中の日本語について

日常使われる意味と異なる言葉があります。例：わる かける ひく など

数学の専門語が使われます。

例：辺 値 方程式 直線 など

3. 国語の中の日本語について

国語の教科書で使われる日本語の語数は数学に比べ多い。複合動詞、オノマトペなど。

これらの問題を解決するために現在子どもの自立学習を目指す「日本語総合教科書」の作成を考えています。

子どもと接するとき大切なこととして、忍耐強く待つ、探る、判断保留、寄り添う、この3つを挙げていましたが、地域日本語教室においても言えることだと思います。

(2) 日本語指導が必要な児童生徒のニーズとボランティアの役割

講師：坂口 有芸氏（研究者）

近年多様な背景を持つ児童生徒の増加に対して文部科学省は専任の日本語指導担当教員の加配などの施策をとってきました。

ニューカマーの児童が抱えるニーズについて、児童、日本語指導者（担当教員・ボランティア）、担任、他の児童間の相互作用をもとに明らかにし、日本語指導者の支援上の役割について検討しました。

日本語指導より学級における教育活動に参加することが優先するという担任の認識に変化をもたらした。担任と担当教員の両者によって児童の教育および支援において対等な関係性であることが認識されました。（ニュース係 石川 明子）

---

## ■■■KFC日本語プロジェクト■■■

### ◆学習者の声

サルマ アスミタさんは自国で高校を卒業し、妹と一緒に神戸に来られました。両親が先に日本で生活していたからです。大学に進学するのを目標に、現在、日本語学校で猛勉強中です。昨年、KFCの夜クラスで8月から3月まで学習しました。夏休みに「ふたば国際プラザ」を覗いてくれました。

KFCで学習して

こんにちは。私はサルマ アスミタと申します。ネパールから来ました。ネパールは中国とインドの間にあります。私は去年の6月に日本へ来ました。

日本へ来た時、日本語がわからなくて色々なところで困っていましたが、KFCが見つかりました。父の職場の近くで家からも歩いて行けます。とても嬉しかったです。

8月1日からKFCでの日本語の勉強が始まりました。先生たちはみんなやさしいし、教え方も覚えやすいし勉強はとても楽しかったです。

日本語はゼロレベルから教えるのが本当に難しいと聞きました。けれど先生たちが楽しく学習に付き合ってくれたおかげで、今、日本語が話せるようになりました。KFCでだいたい7ヶ月勉強して、それから今、国際語学院で日本語を勉強しています。今時々私はKFCを思いだし本当に感謝しています。外国人に一番たいせつなのは日本語です。日本での生活が長くなり、今私は日本語がわかるようになって、生活にも慣れました。以前は日々のことが難しかったですが今は友達もできてアルバイトもしてとても楽しいです。

みなさん、日本へ来て日本語がわからなくて困ったら時にぜひKFCに行ってみてください。楽しく勉強しましょう！

（サルマ アスミタ）

---

## ■■■KFC外国にルーツを持つ子どもの学習支援■■■

### ◆在日外国人児童読書の会

この会は2010年6月からスタートして、もう9年になります。目的は日本語理解が難しい、外国にルーツを持つ子どもに読書の楽しさ、読書習慣を身に付けてもらうことで、学力や日本の知識を習得する機会を作り、閉ざされがちな社会生活への参加の道を広げることでした。

今回は活動の中の一つの「出張読書の会」について報告いたします。

出張読書の会は月一回、駒ヶ林小学校で行います。図書館職員とKFC職員と児童が交代で絵本やベトナム昔話を読んだ後に、季節の工作をしたり、ベトナムか日本の遊びをしていました。当初はベトナムルーツの児童ばかりでしたが、今では児童のルーツが中国・韓国・ミャンマーとイギリスです。この多様なルーツに対して、ベトナム以外の国の絵本や物語も取り込むようにしていきたいです。

8月30日（金）は真陽小学校のHOA MAI教室に出張読書をしました。「賢い嫁」という昔話をベトナム語が読んでくれたのが、日本に来て間もない3年生の女の子でした。当たり前かもしれませんが、ベトナム語で流ちょうに読む彼女を見て、なぜか胸が一杯になりました。読書活動後にドミノゲームをしました。来て間もない彼女は遊び方を知っていて、他の子に教えてくれました。最初は数字に合わせてつなぐだけで単純なゲームだなあと考えていても勝つため、先を読む力や計算、戦略が必要です。少し分かっているところで時間が無くなり、止めなければならなかったことが少し残念でした。

読書活動で少しでも目的に達成すればいいと思っています。 (ハティ タン ガ)

---

### ■■■ ハナの会 ■■■

#### ◆恒例夏祭りイベント

今年は浴衣姿の歌姫こと山下さんが来て下さり、演歌あり、流行歌等美しい歌声を聞かせて下さりました。皆さん手拍子で参加されています。そこへスタッフ（男性スタッフがチマチョゴリに化粧して）が仮装で登場！皆さん大笑いで迎え一緒に写真タイム。“男浪波節”ではお元気な方は輪になり踊りました。

次はスタッフ（妊婦さんと産婆さんとNS）登場。今にも赤ちゃんが生まれそうな妊婦さんが“産気”ついて産まれて来たのはスイカの赤ちゃん!!。皆さん大笑いで始まったスイカ割り（たたき?）ゲーム。特大スイカを次々に目隠しした利用者さんが皆の応援かけ声に右や左へ移動しスイカにポン!!（何度もポンポンされる方もおられましたよ）さすがに新聞紙の棒では割れません!!今度はダンボールで作ったスイカ置台の穴から理事長やデイ責任者の男性がスイカ模様のビーチボールを被り登場。皆さん、ここぞとばかりに容赦なくポンポンとおえらい人達のスイカ頭を叩き続けています。大笑いで盛り上がり、その後美味しい特大スイカをお腹いっぱい頂きました。

皆さんの笑顔とパワーにいつもこちらがエネルギーを頂いています。

(小川 三代子)

---

### ■■■ KFC中国帰国者支援事業 ■■■

#### ◆大阪YWCAの先生方から「イキイキ体操」を教えて頂きました！

中国帰国者新長田交流会は、ふたば国際プラザに活動拠点を移し、毎週火曜日に日本語教室や太極拳、広場踊りなどを楽しんでいます。その中で特別プログラムとして、7月23日に、大阪YWCA近畿中国帰国者支援・交流センターより坂東様、下岡様、小野様の3名の方々に「イキイキ体操」の講師として交流会にお越し頂きました。先生方、帰国者みんなで円になって椅子に座り、指を動かす簡単な運動から、縄はしごを使ってステップを踏む運動など、1時間ほどにわたって幅広い運動を教えて頂きました。当日はスタッフ合わせて50名近くの参加者があり、皆で楽ませて頂きました。講師の方々には改めて御礼申し上げます。今後も、このように積極的に新しい活動を取り入れて、交流会をより楽しめる、役に立つ場にしていきたいと思っております。

以下は、当日参加した方々の感想です。

7月23日に大阪から3名の先生が健康体操を教えに来られました。この場を借りて、先生達お疲れ様でしたと言いたいです。先生に健康に良くて、認知症の予防もできる体操を習うことができました。体操を終えてから体がとても気持ちが良いです。帰ってからも時々教わった体操をして、体の動きで脳にも良い刺激を与えているので、私達の健康にとっても良いと思っております。YWCAの先生達に大変感謝していると同時に、KFCが日本語学習と楽しい遊びの場所の提供に感謝しております。

(帰国者一世 坂本 雪子)

わざわざ大阪から3人の先生が体操を教えに来られて、高齢者の私達に健康に大変役に立つので、嬉しいですね。例えば指の動き、腕の柔軟性運動、歩く練習などで、体も記憶力も鍛えられることができました。私達は体を動かすような体操は本当に好きです。先生達の優しい指導と授業に感謝しており、健康体操を学習する機会を与えて頂いたKFCにも有り難いです。

(帰国者二世 劉 彦芹)

---

### ■■■ グループホーム・小規模多機能型居宅介護ハナ ■■■

#### ◆夏祭り

2019年8月8日(木)小規模多機能ハナとグループホームハナの合同「夏祭り」を開催しました。理事長の開会の挨拶の後、用意した昼食(焼きそば、唐揚げ、ウインナー、そうめん、おにぎり)を、利用者様は美味しそうに召し上がられました。

次にお祭りを盛り上げるために何人かの利用者様に着物を着て頂き、大手前大学実習生も来られていたので一緒に参加して頂きました。いつも体操など体を動かす事に参加されていない方も、声をかけると立たれ盆踊りを笑って楽しく踊られた場面もあり嬉しく思いました。ゲームコーナーでは風船バレーや輪投げ、プレゼント靴下釣りでは棒の先にマグネットを付け靴下を釣ってプレゼントするゲームで楽しめました。

最後のスイカ割りでは何人かの利用者様が的に当たり割られ楽しまれ、後で冷やしたスイカをおやつに召し上がって頂きました。

利用者様の何人かの方に「楽しかったよ」と言って頂き、今後もっと楽しい事を考えないと思いました。

学生さんの協力もあり安全に楽しく出来たことに感謝したいと思えます。お疲れ様でした。有難う御座いました。

(介護士 丁 順子)

---

### ■■■ ふたば国際プラザ ■■■

#### ◆多文化おばけやしきを開催しました！

8月12日に、ふたば国際プラザで「多文化おばけやしき」を開催致しました。これは、多文化への理解を促進するための交流事業の一環として行われたもので、元小学校図工教員の当プラザのスタッフを中心に、兵庫県立大学の学生さんや神戸市の多文化交流員のご協力のもと、小学生とその保護者の方を対象に実施しました。

今回は「世界のおばけに会える」というテーマで、世界中のおばけのイラストやお面で一風変わったおばけ屋敷を演出しました。今回のイベントの「多文化」というのは、こうした演出側の多文化な側面と、来場者の多様性の二つの側面があります。前者については、神戸市の多文化交流員(ベトナムからの留学生)やその友人におばけとして加わって頂いたことのほか、おばけが被ったり壁に展示したりするためのおばけのお面を、学習支援に来ている外国にルーツを持つ子どもたちに作ってもらったことが挙げられます。後者については、近隣の日本人の小学生や第三国定住ミャンマー難民の子どもたち、その保護者の方々など幅広く参加頂いたことが挙げられます。合計50名程に来場して頂きました。

会場について、プラザ一室を終日おばけやしきとして装飾したのですが、当プラザ担当スタッフの創意工夫に富んだレイアウトを、多くの方々のご協力で数日かけて作り上げました。普段は椅子と机だけのスペースですが、窓を黒いシートで覆って暗くして、大型のダンボール版を壁にして順路を作り、おばけのお面を各所に貼り、段ボールの棺桶を設置し、当プラザ自慢の音響設備で怖い音声を流したら、、、非常に本格的なおばけやしきになりました！参加者の中には一人で勇んで入っていったものの、怖くて途中で引き返してくる子もいました。一方で、一度入ったら気に入って、その後何度も入った子もいました。

おかげ様で盛況でしたが、来年はより多くの人々に来場頂けるよう工夫していきたいと思えます。今回は、プラザへの来館者が少なくなることが見込まれたお盆の時期に敢えて集客する目的もあって事業を実施しましたが、お盆ということに加えて当日は炎天下で、普段は外の公園で遊んだりふたば学舎に出入りしたりしている子どもたちがその日はほとんどおらず、当日の集客はあまりできませんでした。また、事前に近隣小学校や商店街、或いはフェイスブックでチラシを使った広報活動を行いました。これもまだまだできることがあったといえます。日頃からプラザに出入りする人々を増やし、近隣地域との関係性を深めて、より多くの方に参加頂けるようにしていきたいと考えております。

今後も生活ガイダンス、ヒューマン・シネマ上映会、日本語ボランティア養成講座、秋からは

留学生や外国にルーツを持つ方々を文化紹介講師として市内の児童館へ派遣する「多文化ひろめ隊♪」など、多くの事業を予定しています。引き続き、地域の拠点となるべく活発に取り組んで参りますので、皆様どうぞ宜しくお願い致します。また、フリースペースは常時開放しておりますので、いつでもお気軽にお越しください。

(大石 貴之)

---

### ■■■ 今後の予定 ■■■

#### ◆ 今後の予定

#### ■ ふたば国際プラザ

9月21日(土) 15:30-17:00

生活ガイドダンス～日本のマナーと「常識」について～

9月27日(金) 18:00-20:15

ヒューマンシネマ上映会「ウエディング・キャンペーン」

10月19日(土) 15:30-17:30

多文化ひろめ隊研修会&児童館との打ち合わせ

#### ■ 縁会

10月18日(金) 17:30-20:30 ランタン縁日

アスタくにつか5番館地下飲食街スペース

11月8日(金) 縁会

アスタくにつか5番館地下飲食街スペース